

PBF 定期通信 no.8

2025 年 8 月 14 日発行

Practical Biosafety Forum : 生物安全実践講習会

発信元 : (一財)機能水研究振興財団 / (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター
生物安全実践講習会 専門委員会
編集担当 清水雅俊・堀田国元

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-20-8 Tel: 03-5435-8501, Fax: 03-5435-8522
E-mail: shimizu@fwf.or.jp ホームページ: <https://biosafetyforum.wixsite.com/seibutuanzen>

2025 年度 年間スケジュール

8 月 27~28 日	第 6 回 実践コース B	医療研修施設ニプロ iMEP(滋賀県)
11 月頃	第 3 回 実践コース A	未定
2 月 25~26 日	第 7 回 実践コース B	北里環境科学センター(神奈川県)

● Topics ●

生物安全関連情報 :	GPMB・CDC・WHO など	P2
	感染症エクスプレス	P3
開催案内 :	第 6 回実践コース B	P4

【お知らせ】

・講習会広報用動画が完成しました。

第 3 回実践コース B 開催時に撮影した動画を 5 分間のダイジェストにまとめた動画を作成しました。
会社の同僚や上司部下、関係する方々へも是非ご紹介ください。

動画は講習会ホームページ、または YouTube へ掲載しています。

講習会ホームページ <<https://biosafetyforum.wixsite.com/seibutuanzen>>

YouTube  <<https://www.youtube.com/watch?v=0o941n2H6w8&t=21s>>



【生物安全関連情報】

◎ GPMB (Global Preparedness Monitoring Board: 世界健康危機モニタリング委員会)

- The Changing Face of Pandemic Risk: 2024 Report

<https://www.gpmb.org/reports/report-2024>

パンデミックリスクの変遷: 2024 年レポート

21 世紀に入り、世界的に健康への脅威は著しく増加した。疫病やパンデミックは、もはや稀な出来事ではなく、常に起こりうる脅威となっている。当レポートは、世界のリーダー、政策立案者、医療専門家、そして地域社会に対し、より安全でレジリエントな未来を築くための行動を呼びかけている。パンデミックリスクの主要因を One Health の概念に基づき概説し、防御を強化するためのロードマップを示す。

- Withdrawal of the United States from the WHO –How President Trump Is Weakening Public Health

<https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJMp2501790>

アメリカの WHO 脱退——トランプ大統領はいかに公衆衛生を弱体化させているか

第 2 次トランプ政権の WHO 脱退による影響について、米国の Duke 大学と Emory 大学の研究者が天然痘、ポリオ、インフルエンザ、NTDs、マラリア、AIDS の撲滅運動への詳細な影響を著述。

◎ CDC

- Progression from Candida auris Colonization Screening to Clinical Case Status, United States, 2016–2023

https://wwwnc.cdc.gov/eid/article/31/8/25-0315_article

2016～2023 年の米国におけるカンジダアウリスコロニースクリーニング から臨床症例ステータス

当報告ではカンジダアウリスのコロニーゼーションから臨床症例への進行状況を分析した結果を示す。

2016 年から 2023 年にかけて、カンジダアウリス (Candida auris) のコロニー化検査で陽性反応を示した米国患者 21,195 人のうち、6.9%がその後、臨床検体で陽性反応を示した (2.8%は血液検体)。コロニー化患者における侵襲性カンジダアウリス感染症の予防には、患者の除菌などによる対策が必要である。

◎ WHO

- World Health Assembly adopts historic Pandemic Agreement to make the world more equitable and safer from future pandemics

<https://www.who.int/news/item/20-05-2025-world-health-assembly-adopts-historic-pandemic-agreement-to-make-the-world-more-equitable-and-safer-from-future-pandemics>

世界保健総会は、将来のパンデミックに対して世界をより公平かつ安全にするための歴史的なパンデミック協定を採択した。

WHO 加盟国は世界初のパンデミック協定を全会一致で正式に採択した。第 78 回世界保健総会におけるこの画期的な決定は、COVID-19 パンデミックの壊滅的な影響への対応として各国政府が開始した 3 年以上にわたる集中的な交渉の集大成であり、将来のパンデミックに対して世界をより安全に、そしてより公平に対応できるようにするという目標を掲げている。

- WHO Pandemic Agreement Approved by Member States, Ushering in a Dangerous New World Health Order

https://www.thefocalpoints.com/p/breaking-who-pandemic-agreement-approved?utm_source=publication-search

WHO のパンデミック合意が加盟国によって承認され、危険な新たな世界保健秩序の到来を告げる

WHO は歴史的ではあるが非常に懸念される措置を講じた。加盟国は世界保健総会を通じて、世界条約である WHO パンデミック協定を採択した。この合意は WHO によって「公平」、「連帯」、そして「科学に基づいた」パンデミック対応のための画期的なツールとされているが、実際は国家主権を脅かし、緊急対策を制度化し、将来の健康危機における WHO の中心的な調整機関としての地位を確立する、憂慮すべき条項が含まれている。

◎ 感染症エクスプレス Vol.541 @厚労省

【トピックス】

◆重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱等に関連して、マダニ対策に関するガイドを更新

・最新版「マダニ対策、今できること」(国立健康危機管理研究機構)

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ta/tick-borne-diseases/tick-prevention/index.html>

・ガイド(PDF)(2025年8月6日改訂)

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ta/tick-borne-diseases/tick-prevention/20250729-tick-prevention.pdf>

◆麻しん・風しん

夏休みの海外旅行シーズンの季節となった中で、国外での感染に注意が必要な麻しん・風しんのホームページを更新。麻しんは、コロナ禍後、世界各国で麻しんの流行が報告されており、日本でも海外旅行をきっかけとした麻しんの感染報告が2023年から増加している。風しんも、国外で風しんの発生率の高い国もあるため、同じく適切な感染対策が必要。(啓発ツール:<https://www.mhlw.go.jp/content/001521591.pdf>)

・麻しん

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html

・風しん

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index.html

・風しんの発生に関するリスクアセスメント(2025年第一版)が国立健康危機管理研究機構より発出

https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/rubella/risk-assessment/rubella_ra_2025_1.pdf

【新型コロナウイルスについて】

2025年第31週(7/28~8/3)における定点当たり報告数は、5.53(報告数 21,365 件)

・報道発表資料について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00474.html

【お役立ちリンク集】

◆IDWR 2025年第30週(2025年8月8日発行)

＜注目すべき感染症＞手足口病、ヘルパンギーナともに毎年夏期に流行がみられる

2025年は手足口病、ヘルパンギーナともに大きな流行は確認されていないが、注視が必要。

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/idwr/2025/idwr2025-30.pdf>

◆厚生労働省検疫所(FORTH):海外の感染症情報

黄熱-アメリカ大陸地域(南米)(2025年5月16日)

https://www.forth.go.jp/topics/2025/20250702_00001.html

◆マダニが媒介する感染症に注意:2025年8月8日(金)

<https://x.com/MHLWitter/status/1953653579266564117>

◆第31週(7/28~8/3)新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数の推移:2025年8月8日(金)

<https://x.com/MHLWitter/status/1953698047487357183>

◆梅毒が増加:2025年7月18日(金)

<https://x.com/MHLWitter/status/1946133518205276264>

◆百日せきに注意:2025年7月29日(金)

<https://x.com/MHLWitter/status/1950028955786133870>

◆コンゴ民主共和国 政府にワクチンと接種針を供与:2025年7月17日(木)

<https://x.com/MHLWitter/status/1945665709666963528>

◆夏の感染症対策:2025年7月15日(火)

<https://x.com/MHLWitter/status/1944924973954687297>

【開催案内】



生物安全実践講習会 第6回 実践コースB

日程：令和7年8月27・28日(水・木) 2日間(各日 9:00～17:00)

会場：医療研修施設「ニプロ iMEP」

【アクセス】JR南草津駅(京都駅より新快速 17分)より徒歩約3分

内容：病原体の取扱い・管理のために必要な

法令を含めた先進的知識と技術に関する座学と実習

受講料：1名 35,000円(テキスト事前配布)

申込方法：生物安全実践講習会ホームページの「開催案内」より
< <https://biossafetyforum.wixsite.com/seibutanzen> >

事務局：生物安全実践講習会 担当 清水雅俊(kinousui-zaidan@fwf.or.jp)

講習会ホームページ



【予定プログラム】

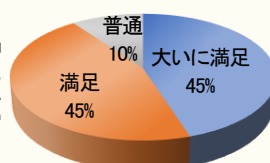
	区分	題目	座学講師・実習指導者
座学	ガイダンス	講習会概要	堀田 国元 機能水研究振興財団 理事長
	座学1	感染制御概論Ⅰ-細菌-	矢野 寿一 奈良県立医科大学 教授
	座学2	感染制御概論Ⅱ-ウイルス-	呉 成旭 ルイ・パストゥール医学研究センター 研究部長
	座学3	病原体の消毒・殺菌および滅菌	堀田 国元 元国立感染症研究所生物活性物質部 室長
	座学4	One Health からみた 薬剤耐性菌の現状と課題	浅井 鉄夫 岐阜大学 教授
	座学5	医薬品製造における汚染防止対策とGMP	佐々木 次雄 元国立感染症研究所細菌第二部 室長
	座学6	遺伝子組換え生物等の利用と安全対策	辻井 栄作 京都大学総合研究推進本部
	座学7	遺伝子関連検査と安全対策	林 邦彦 (株)池田理化 / PCR感染症検査研究会
	特別講演	今知っておくべき新知識・新情報 生物安全、バイオエアロゾルに注目して	藤田 直久 京都府保健環境研究所 所長
実習	実習1	病原体の輸送・梱包および漏洩時対応	伊木 繁雄 国立感染症研究所安全管理研究センター 主任研究官 鹿住 祐子 元結核予防会結核研究所抗酸菌部結核菌情報科 霜島 正浩 (株)スギヤマゲン
	実習2	個人防護具(PPE)の着脱	アゼアス(株)
	実習3	遺伝子関連検査の基本操作と安全対策	林 邦彦 (株)池田理化 / PCR感染症検査研究会
	実習4	安全キャビネットの構造と管理他	関口 勝美 (株)アルパーネット代表



＜受講生の声＞

講習会満足度

『座学』



『実習』

